

SHOW HEY シネマルーム

★★★

ハリウッド★ホンコン

(香港有個荷里活/HOLLYWOOD★HONG KONG)

2001年・フランス、香港、日本合作映画・108分

配給/メディア・スーツ・博報堂

2003 (平成15) 年12月10日鑑賞

<ホクテン座・中国映画特集>

Data

監督：陳果 (フルーツ・チャン)

出演：周迅 (ジョウ・シュン) / 陳

英明 (グレン・テン) / 黃又

南 (ウォン・ユーンナン) / 何

世文 (ホウ・サイマン) / 梁

仕平 (レオン・ツイーピン)

👁️👁️ みどころ

高層ビルが林立する「ハリウッド地区」VS取り壊し寸前のバラックの家が並ぶ再開発地区。キュートな魅力の若く美しいヒロインVS下町に住む焼き豚屋の男たち。そんなオモロイ人物の取り合わせの中、奇妙な男女の物語が……。ヒロイン周迅の魅力はタップリだが、やはり女はコワイ……。？

<陳果 (フルーツ・チャン) 監督とは?>

陳果監督は、『メイド・イン・ホンコン』(97年)で鮮烈なデビューを飾り、以後各国の映画祭で数々の賞に輝いた、1959年生まれの若手監督。

私は、この『メイド・イン・ホンコン』は観ていない。私が観た陳果監督の作品は、『ドリアンドリアン』(00年)。これは中国東北地方から香港にやってきた女性たちの生々しいエピソードを、ドリアンという果物を軸にして描いた面白い作品だった。これは2001年香港金豆賞の主演女優賞/最優秀脚本賞、香港映画アワードの最優秀新人賞/最優秀脚本賞、HKFC Sアワードの最優秀主演女優賞を受賞したとのこと。

そしてこの『ハリウッド★ホンコン』は2001年に公開されたもので、第39回台湾金馬賞・監督賞+プロダクション・デザイン賞+音響賞を受賞した作品。

<ヒロインは周迅 (ジョウ・シュン) >

上海 (大陸) から香港にやってきたヒロインの美少女を演ずるのは周迅 (ジョウ・シュン)。彼女は張藝謀 (チャン・イーモウ) と並ぶ中国第5世代監督の旗手、陳凱歌 (チェン・カイコー) が『始皇帝暗殺』(97年)で盲目の少女役に抜擢した若手女優。

その後『ふたりの人魚』(98年)で、2000年バリ映画祭の主演女優賞を獲得。さら

に日本でも大ヒットした『小さな中国のお針子』(01年)では、都会の青年に恋する素朴な田舎娘を瑞々しく演じた美人女優で、中国で最も人気のある4大女優(4小名旦)の1人。その周迅が、本作では、男たちを惑わすキュートな上海娘として大活躍だが・・・？

＜ハリウッド・ホンコン地区VSダイホーム・ビレッジ＞

香港に超高層ビルが林立しているのは常識。私が1997年に、返還直前の香港を旅行した時にもそれは大いに実感したものだ。しかし、その香港の都市部にもまだ整備されていない下町がある。日本でいう「密集市街地」だ。日本では1998年に「密集市街地法」が成立し、さらに2003年6月にはこれが改正されて、「密集市街地」の整備が促進されているが、実はこれは極めて難事業。

また近時2003年10月には、北京の再開発事業のため立退きを迫られた住民が、天安門前でガソリンをかぶって抗議の焼身自殺をはかったことが報道されるほど、再開発事業をめぐる「土地戦争」は深刻だ。

この映画の主人公たちが住むのは、香港都市部に残された最後の下町ダイホーム・ビレッジ。今この下町は国の再開発事業によって取り壊しの運命にあるが、そのほとんどの建物はバラック建てで、トタン屋根というかなりひどい状態。

他方、この背後にそびえ立つ「ハリウッド地区」に建つのは、5棟の超高層マンション。美少女のヒロインは、このマンションに住んでいるらしい。しかしなぜ、彼女はそんなリッチなところに住めるのか・・・？

＜主人公の男たちは＞

第1の主人公は父親チュウ(陳英明)、長男ミン(何世文)、次男タイニー(梁仕平)という男ばかりの3人家族。チュウは「ダイホーム・ビレッジ」で「朱」豚肉店という焼き豚屋を経営している。そして「準主人公」が、「ママ」と呼ばれている大きな一匹の豚。豚が重宝されていることは、最初の字幕が豚の身体に刻み込まれて出てくるという演出からもよくわかる。そして驚くのが冒頭シーン。

ゆうに100kg以上はあると思われる父親と長男。そして小学生でチビなのに、既に体重が70kgはあると思われる超太っちょ家族の3人が、豚を乗せた車を乗りつけ、1人1匹ずつ豚を担いでいき、これをさばいたり、焼いたりするシーン。これは観ていて圧巻だ。

もう1人の主人公は、「朱」豚肉店の近くに住むチンピラのウォン(黄又南)。彼は若いのに、出会い系サイトのホームページを運営して、ヒモのような生活をしている。この下町に住む3人家族とウォンが、「ハリウッド」地区から下町に「降りてきた」ヒロインの登場によって大騒動に巻き込まれていくことになるが・・・。

<ヒロインの名はトントン（東東）、ホンホン（紅紅）、そしてフォン・フォン（芳芳）>
東東は最初、小学生の次男タイニーと仲良しになった。東東は謎めいた美少女だが、清楚な感じで魅力タップリ。当然男は誰でも、一目見れば彼女に惹かれていく。ところがウォンが見たパソコンの出会い系サイトには、何とこの東東と全く同じ顔の上海娘、紅紅の顔写真が。ウォンは大枚1000ドルをはたいてこの紅紅と夢の一発(?)を……。この紅紅とは一体誰……?

次男の小学生タイニーとお友達になった東東は、次に長男のミンに対しても妖しげに接触。その「誘惑」に我慢しきれなくなった長男ミンも遂に東東と一発(?)……。ミンは大満足だが……。

さらには父親のチュウも、天衣無縫にブランコをこいで遊ぶ東東に夢見心地。遂には自らもブランコに乗って無邪気に遊ぶ始末。一体この家族はどうなっているの……?

さらに東東、紅紅に続いて芳芳の名も……。芳芳とは一体誰……?

<ヒロインは美人局(つつもたせ)……?>

ところがその後、何とウォンの手元には、取り立て屋、さらには弁護士から「金を払え！」の催促が……。一体これは何だ……。あの紅紅という女は日本流でいうところの美人局だったのか……。ウォンは怒り狂ってパソコンをつぶしてしまったが、それだけではすまない。香港の取り立て屋はホンモノだった。まずは、ウォンを追ってきた取り立て屋は、若い男をウォンとまちがえて、その若い男の左腕をチョン切った。

さらに、それがニセモノと気づいた取り立て屋は、遂にホンモノのウォンの右腕も躊躇することなくチョン切ってしまった。そして何と、2本の捨てられた腕は、元の所有者(?)に戻ることなく、それぞれ違う被害者の腕に……。

何だこれは……。何とも恐ろしく、グロテスクな話。

事態は更に展開し、金の催促はミンにも及んできた……。

すると、ヒロインの東東、紅紅、芳芳を演ずる周迅は可愛いキュートな美人だが、その実態は……。ホントにオンナはコワイ。オンナは顔だけで信用してはいけない、とつくづく実感……。こんな感想で終わっているのかな……?

2003(平成15)年12月11日記